

| | | | |
|------|---|---------------|----|
| 会議名称 | 平成22年度 第1回 倉吉市国民健康保険運営協議会 | | |
| 開催日時 | 平成22年8月26日(木) 13時30分から14時55分まで | | |
| 開催場所 | 倉吉市役所 大会議室 | | |
| 議題 | 1 平成21年度国保事業決算について 2 平成22年度国保事業について 3 その他 | | |
| 出席者 | 出席委員11名(欠席委員5名) | | |
| | 所管部課名 | 福祉保健部健康局医療保険課 | |
| 公開の別 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 | 傍聴者の人数 | 1人 |
| | <input type="checkbox"/> 非公開 | 非公開の理由 | |

【会議の概要】

1. 開会

2. 委嘱状交付

全委員改選により。(任期：平成22年7月25日～平成24年7月24日)

3. 会長及び会長代理の選出

会長に 桑本圭二 委員(公益代表)、会長代理に 井手添陽子 委員(公益代表) を選出。

4. 議事

(1) 平成21年度国保事業決算について

[事務局] 会議資料に基づき説明。

<被保険者数等の状況>

平成21年度の平均被保険者数・平均世帯数ともほぼ横ばい。

<医療費の状況>

医療費は平成20年度と比較して、約5%の大幅な伸び。1人当たりの医療費の伸びが大きくなっている。受診率・1件当たりの日数の伸びに比して、費用額の伸びが大きい。これは、医療の高度化等の影響が考えられる。

<収納率の状況>

平成21年度の収納率は、平成20年度と比較して、現年度分0.36%、滞納分0.21%、全体で0.06%の上昇。

<特定健康診査の状況>

受診率は、平成20年度と比較して2.7%の上昇。健診別の割合は、集団健診62.2%、個別健診37.8%となった。

<決算の状況>

平成21年度国保会計の実質単年度収支は、194,296,291円の赤字。このため国保基金を1億9千5百万円取り崩し、基金保有額は4億6千6百万円となった。

[委員] 本市における資格証明書の状況はどのようになっているか。

[事務局] 平成22年2月末で、157世帯に交付している。また、本年7月より高校生以下の被保険者には資格証明書を交付しない取扱いとなったが、本市においては平成20年12月から高校生以下の被保険者について資格証明書を交付しない取扱いを行っている。

(2) 平成22年度国保事業について

[事務局] 会議資料・「平成22年度 倉吉市国民健康保険事業運営に関する事業計画」・「国民健康保険の状況と保険料の改定について」に基づき説明。

<予算の状況>

平成22年度の保険料率改定に伴い前年度決算と比較して保険料収入を約1億1千万円の増、現在までの保険給付支払実績により前年度決算と比較して保険給付費を約5千万円の増とした。これにより、基金取崩しを1億5千万円とした。実際の決算は予備費を支出しないとすると、約1億円の基金取崩しとなる見込み。

<事業計画の状況>

平成22年度国保事業の重点的な取り組みとして、収納率向上、医療費適正化、健康

づくりへの取り組み強化を行う。

〈国保料改定に伴う住民説明会の状況〉

平成22年6月11日から7月1日まで、市内13地区で説明会を実施して162人の参加。保険料の引き上げの背景についてはある程度ご理解いただけたと考えている。

[委員] 高額療養費が伸びてきているようであるが、今後の見込みはどうか。

[事務局] 医療費が多くなると必然的に高額医療費は多くなるが、今般の高額療養費の伸びは、被保険者の所得の減少等により自己負担限度額が下がったためではないかと考えている。現在の経済状況が続けば、高額療養費の伸びは大きくなるのではないかと考える。

[委員] 費用面だけを強調したジェネリック医薬品の普及啓発は疑問が残る。本市のスタンスは。

[事務局] 本市のジェネリック医薬品の普及啓発については副作用等の問題もあり、医師、薬剤師によく相談のうえ使用していただくよう「このような薬もある」という情報提供の一つとして啓発している。

(3) その他

[事務局] 平成25年度に予定されている医療制度改革について、現在、国等で中間報告として示されている改革の方向性について説明。

5. 閉会